



### <来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
10/23 (月)	+ 100	+ 8,700	+ 8,800	国庫短期証券発行・償還 (3M)		CP等買入 ▲ 300 国債補充供給 + 34,100	日: 岸田首相が国会で所信表明演説
10/24 (火)	トン	▲ 1,000	▲ 1,000			社債等買入 + 1,000	日: 日銀、基調的なインフレ率を補足するための指標 米: S&Pグローバル米製造業・サービス業PMI (10月)
10/25 (水)	トン	▲ 1,000	▲ 1,000		共通担保 ▲ 6,400		
10/26 (木)	▲ 1,000	▲ 2,000	▲ 3,000				欧: ECB政策金利発表、総裁記者会見 米: 新規失業保険申請件数 (21日終了週) 米: GDP (3Q、速報値)
10/27 (金)	▲ 1,000	+ 7,000	+ 6,000				

### <インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1,400億円減少の545兆6,100億円から始まり、17日には国債買入オペ等により、547兆8,300億円まで増加した。その後、国債発行や臨時の国債買入オペ等で増減し、週末20日には547兆200億円 (速報) で越週となった。

無担保コールON物は週初▲0.028%から始まった。その後、調達サイドの強い調達意欲から同金利は上昇基調を辿り、週末となる20日には▲0.010%(速報) となった。

ターム物は1W~1M物の幅広い期間で▲0.040%~▲0.010%のレンジで出が見られた。

来週の予定は、国内では、23日に岸田首相の所信表明演説、24日に日銀による基調的なインフレ率を補足するための指標の公表などがあり、海外では24日にS&Pグローバル米製造業・サービス業PMIの公表、26日にECB政策金利発表、総裁記者会見、26日に米新規失業保険申請件数、米GDP (3Q、速報値) の公表などがある。

### <レポ>

足許GCは週初から週末まで▲0.12%~▲0.10%のレンジで取引された。短国の入札が続いた週後半は上昇し、▲0.09%台が出合いの中心となった。

SC取引は2年438~453回債、5年149~162回債、10年350~372回債、20年180~186回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

### <CP>

今週の入札発行総額は約6,100億円で、週間償還額 (約4,700億円) を上回った。発行市場は、鉄鋼や小売業等にて大型案件が実施され、活況なマーケットとなった。発行残高は前週末の25兆3,660億円から19日時点で26兆1,488億円と増加した。発行レートは概ね0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の週間償還額は、月末日の大量償還 (約1兆6,500億円) を含み、約2兆1,400億円となっている。発行市場は、月末週で案件が多く、マーケットは活況となると思われる。発行レートは、期内物を中心に0%近辺での出合いが中心となる一方、金融政策修正の警戒感等から期越え案件についてはレート水準が定まりにくい展開を予想する。26日に、CP等買入オペが4,000億円でオフアされる予定となっている。

### <TDB>

19日の1Y (1189回債) の入札は、最高落札利回り▲0.0208% (前回債▲0.0189%)、平均落札利回り▲0.0308% (前回債▲0.0378%) となった。20日の3M (1190回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1824% (前回債▲0.1955%)、平均落札利回り▲0.1928% (前回債▲0.2177%) となった。

来週は27日に3Mの入札が予定されている。

### [無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

### [オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010